

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシヤジョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップⅡ(国際教養学科)
	学部・研究科等名	学芸学部国際教養学科
	担当教職員名・役職	飯田 毅 教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	3
	受入企業等数	1
	受入企業等名	同志社国際学院(DIA)
	インターンシップの分類	9.その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	日英バイリンガル教育インターンシップ実習体験	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事.3.その他
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	同志社国際学院にて実施されている日英バイリンガル教育指導を教員の立場から体験する。
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	初等部で実施されている日英バイリンガル教育を実施している教員の補助を通して、児童の学習を観察しながら、バイリンガル教育方法と成果を学ぶ。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している.6.当該インターンシップは、選択科目として実施している.8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次秋学期に選択必修科目「InternshipⅡ/インターンシップⅡ」として実施している。指導は事前指導、実習、事後指導に分かれる。事前指導では、バイリンガル教育及び同志社国際学院について理解する。2月に10日間実習を予定している。事後指導では、報告会を通して、実習全体を振り返る。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている.2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている.3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている.4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている.3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	メールを使って状況を把握している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前指導(全7回):インターンシップの心構え及び本インターンシップの紹介、International school及びImmersion educationの特徴、探究の単元(Unit of Inquiry)、学習指導要領と小学校教育、小学校における英語教育、小学校における教科指導と特別活動、小学生の心理、同志社国際学院における一日及び教員としての心構え(同志社国際学院訪問)
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後指導(全1回):報告会(実習してきた内容を担当者及び国際教養学科の1年次生に報告する資料の準備をする)
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	メールを使って状況を把握している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている.2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前指導に関しては、毎回事前に調査してきたことに関して授業の中でフィードバックする。また、A4用紙にまとめてきたものは、コメントして、次週に返却する。事後指導については、報告会での発表後、発表に関してコメントする。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間計10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	同志社国際学院において2月に計10日間の実習を行っている。	

要素 ⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習日の振り返りや、指導書にコメントをさせていただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2017&value(semekikn)=1&value(kougicd)=554500&value(crclumcd)=9999999999
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	学芸学部・文学研究科事務室(国際教養学科)
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	0774-65-8602
	メールアドレス	dis-t@dwc.doshisha.ac.jp